ハイマート
Heimat

ぐんま日独協会 会報

2020 年 5 月 18 日

５６号

発行者　　鈴木 克彬
発行所　　ぐんま日独協会
〒371-0105
群馬県前橋市富士見町石井 2445-219
電話　：027-288-4297
E-mail：info@jdg-gunma.jp

ホームページ　：　http://www.jdg-gunma.jp/
ホームページの右下『ハイマート』から本誌をカラーでご覧いただけます。

【初のオンライン活動 - 5 月 16 日「ドイツ語ニュースを聞く会」のパソコン画面 - 10 名参加】

１．会長のことば ２
２．定期総会書面評決結果報告 ３
３．新型コロナに立ち向かうロベルト・コッホ研究所 ..... ３～６
４．津軽三味線（連載－１） ..... ７～８
５．日本百名山 - 独訳（連載－６） ..... ９～１２
６．デザイナー修行奮闘記（連載－１５） ..... １３～１４
７．新型コロナウイルス雑感 ..... １４～１６
８．オンライン活動の試み １６

会長挨拶

会長　鈴木克彬

コロナウイルスの感染症対策から感じたこと

４月末のテレビで沖縄県玉城知事は「ゴールデンウィークでの本土からの沖縄旅行は中止して欲しい」と発言がありました。一方群馬県山本知事は「大型連休中、草津・伊香保・水上・四万等、群馬県の温泉旅館はコロナウイルス感染防止のため休館にして欲しい」と要請されました。山本知事はもともと草津の旅館出身の方です。どんな思いで要請されたか、さぞ辛い思いをされたと推測されます。また永年、地元観光誘致に尽力された方々の積み重ねが一瞬にして消えてしまうのですから、関係者の無念を心からお察しいたします。

第９回ドイツフェスティバル in ぐんまのパネル展テーマについて

さて、ぐんま日独協会は通常なら、来年２０２１年６月、隔年で行う『第９回ドイツフェスティバル in ぐんま』を県庁ホールで開催する予定です（状況を見て変更も検討要)。そしてその際の中核となるパネル展のテーマを仮題『日独森林の特徴、類似点と相違点』としたいと考えています。そもそも森林を大切に思い愛着を持っていること、気候変動対策等は、日独両国民とも共通です。

しかし森に対する観点・考え方は相当違います。稲作のため森林の水を絶対に必要とする農耕民族に対し、伝統的に狩や木の実等、森の恵みを享受し、生活の糧としていた狩猟民族との違いがあります。また樹木の種類、林業の管理方法等も大きく違います。

１年かけての研究テーマとして・・ご協力を‥

群馬県は 70％が森林と言われています。県民の方々に森林の大切さを提示し、群馬の森林を理解していただくことは、水害等の自然災害対策、地球温暖化への気候変動対策等にも役立つとともに、『山本知事の 2050 年五つのゼロ宣言』の項目とも一致します。

講演会の開催、チームを作っての研究会等、群馬県関係部門のご協力も得て、時間をかけ準備したいと考えています。その際は会員方のご協力をお願いします。

２．定期総会書面評決結果報告（事務局）

4 月 29 日に予定をしていた 2020 年の定期総会は COVID-19 拡散防止のため中止せざるを得なくなりました。そこで書面評決という方法で議案を会員に諮りました。評決の結果は下記のとおりです。

ハガキ発信　　121 通
ハガキ返信　　82 通（内無記名 2 枚：無効扱い）（返信率 68%）
家族会員　　24 名
合計有効評決数　104 名

評決内容

★総会の書面評決への切り替え
★第 1 号議案：2019 年度決算報告
★第 2 号議案：2020 年度計画
★第 3 号議案：規約改正
★第 4 号議案：役員改選
評決結果すべての項目で賛成 104、反対 0
【参考：無記名の 2 通も賛成票でした】

よって議案はすべて原案通り承認されました。困難な状況の中、ご協力ありがとうございました。

３．新型コロナに立ち向かうロベルト・コッホ研究所（宮越リカ 会員 記）

新型コロナウイルスの感染拡大に対するドイツの対応が高く評価されています。ここで大きな役割を果たしているのがドイツの公衆衛生研究機関、ロベルト・コッホ研究所（RKI）。どのような機関なのでしょう。

3 月 18 日夜――アテネでオリンピックの聖火引き継ぎ式がおこなわれた前夜のこと――国境封鎖など厳しい政策に踏み切ったドイツでは、メルケル首相が異例のテレビ演説をおこない、「第二次世界大戦以来の挑戦」との強い危機感を表明しました。国民に寄り添う優しさと言葉に重みが感じられるこの演説は多くの自国民の心に響いただけでなく、国外にも紹介され話題になったのでご存知の方も多いことと思います。

この演説中、私が最も関心を引かれたのは次のくだりでした。
「皆さんに申し上げることは全て、連邦政府がいま、ロベルト・コッホ研究所の専門家や、他の科学者、ウイルス学者と検討していることに基づきます」
というのも、この演説の 10 日ほど前の真夜中、偶然インターネットで配信されていたある記者会見を見て感銘を受けていたからです。会見したのはドイツ連邦保健相シュパーン氏、RKI 所長ヴィーラー氏、そしてベルリンにある欧州最大級の大学

病院シャリテのウイルス学研究所長ドロステン氏の３名。それぞれが担当分野について言葉を尽くして情報を提供、対応策の科学的根拠を示して国民の理解と協力を得ようと努力する姿がありました。感染者数が 902 人を数えたこの時点で、ドイツ各地の検査機関や大学では検査体制が整い、医療機関では感染者受け入れの準備ができているということでした。メルケル首相が演説の中で言及した「専門家」による、何とも安心感の得られる会見だったのです。そして実際に 4 月 24 日現在、大量の検査を反映して感染者数は 150,383 人と多い中、死者数は 5,321 人と周辺諸国に比べて少なく抑えられており、医療崩壊もおきていません。同時に、慎重ながら接触制限解除の検討もはじまりました。

感染拡大の抑制に RKI はどのような役割を果たしているのか、主に研究所のウェブサイト https://www.rki.de/DE/Home/homepage_node.html の情報をもとにご紹介します。

RKI の前身は、1891 年に設立されたプロイセン王立感染症研究所。初代所長ロベルト･コッホ（1843～1910）は、パスツールと並んで「細菌学の祖」と称される細菌学者です。細菌が病気の原因となることを科学的に証明し、炭疽菌、結核菌、コレラ菌を発見、細菌の純粋培養や染色法を確立するなど、細菌学の基礎を築きました。結核研究の功績に対して 1905 年にノーベル医学・生理学賞が授与されています。また「日本の細菌学の父」北里柴三郎が師事したのも、ベルリン大学で教鞭をとっていたコッホでした。

現在の RKI はベルリンに本部と研究所を置くドイツ連邦保健省管轄下の公衆衛生研究機関。住民を病気から守り、健康状態を改善することを使命として、感染症ならびに非感染性の重要な疾患（糖尿病、がん、心血管系疾患）に関する研究とデータ収集をおこない、その成果に基づいて健康政策を提言・勧告します。また、世界保健機関（WHO）等との国際協力、感染症専門家の育成、市民に対する情報提供も担っています。約 1,200 名の職員（うち半数が科学者）を擁し、年間予算は約 9,000 万ユーロ（106 億円）に上ります（2018 年）。

2008 年から 2012 年にかけて実行された「RK2010 計画」では、現代社会のニーズに合った公衆衛生研究機関としての活動を充実させるために 140 名の増員がありました。取り組むべき重要なテーマとして、季節性インフルエンザ、薬剤耐性菌、HIV ほか性感染症、SARS、パンデミック、バイオテロ、リスク管理、感染症以外の重要な疾患などがあげられています。また、現在進行中の「RK2025 計画」では、ビッグデータを使って国民の健康状態をリアルタイムで分析するデジタル疫学のインフラを構築し、全国の公衆衛生関係者をネットワークで結び、国内外の公衆衛生機関との協力を増強するといった目標が掲げられています。

パンデミックに関して、RKI はリスク分析を実施し、国家パンデミック計画を策定しています。

2012 年 12 月にドイツ政府は連邦議会に「2012 年防災計画のためのリスク分析報告書」を提出しました。国のリスク管理政策策定に必要な客観的情報を提供し、意思決定の拠り所となるこの報告書の中で、RKI は現在の新型コロナとよく似た「未知のコロナウイルス」によるパンデミックを想定したリスク分析をおこないました。最終的に終息するまでに３年間で３回流行の波があり、患者数が医療資源を上回るため医療崩壊が起こり、ドイツだけで合計 750 万人が亡くなるという衝撃的なシナリオでした。

ドイツはまた WHO の勧告にしたがって、2005 年から国家パンデミック計画を発表してきました。インフルエンザ・パンデミックに対して連邦・州当局と諸機関が整えておくべき準備ならびに発生時の行動に関する計画を RKI が中心となって策定しています。この国家パンデミック計画が実際に役立つことは、2009 年に発生した新型インフルエンザ H1N1 への対応で証明されましたが、課題も明らかになりました。そのひとつは情報提供のあり方に関するもので、状況説明や政策決定の根拠について透明性の高い情報提供をおこなわなければ住民の信頼と協力は得られないことが認識されたのでした。

「情報は受け手がそれを理解し応用できる形で発信しなければ意味がない」という認識のもと、RKI が情報コミュニケーションにたいへん力を入れていることは、本稿を書くために RKI のウェブサイトを閲覧し、新型コロナ感染について RKI が発信している各種情報にふれて実感しているところです。ウェブサイトには、一般向けのパンフレットや動画、報告書をはじめとして、病原菌に関する学術研究報告、各種感染症の発生状況の報告など、全容がつかめないほど膨大な量があります。またメーリングリストに加えてツイッターやユーチューブにも RKI のチャンネルがあり、最新情報を提供しています。

このたびの新型コロナ感染に関してみれば、全国の感染状況が一目でわかるページ、Covid-19 に関する最新知見の解説ページが日々更新されるのはもとより、毎週火曜日と金曜日には所長の記者会見がネット配信され、過去の会見もユーチューブの RKI チャンネルで視聴可能です。全国に 1,000 以上ある病院の前日の ICU ベッド空き状況が共有されるシステムが構築されていて、日本にいる私でさえも特定の郡の空きベッド数をすぐに確認できるのには驚きました（次ページの図)。だれもが簡単に入手できる最新情報が日本とは桁違いに多いと感じます。

ドイツの迅速な対応の背景には、実は何年も前から体制を整えてきた RKI のはたらきがあることがわかりました。収集したデータに基づいて現状を分析し、見通しをたて、政府･保健省等に勧告をおこなう。それに基づいて政府が政治的判断を下して対策を決定し、国民にはそれらの情報を透明性をもってできるだけわかりやすく伝え、理解と協力を求める。こうしたことが予定どおり機能した結果、医療体制

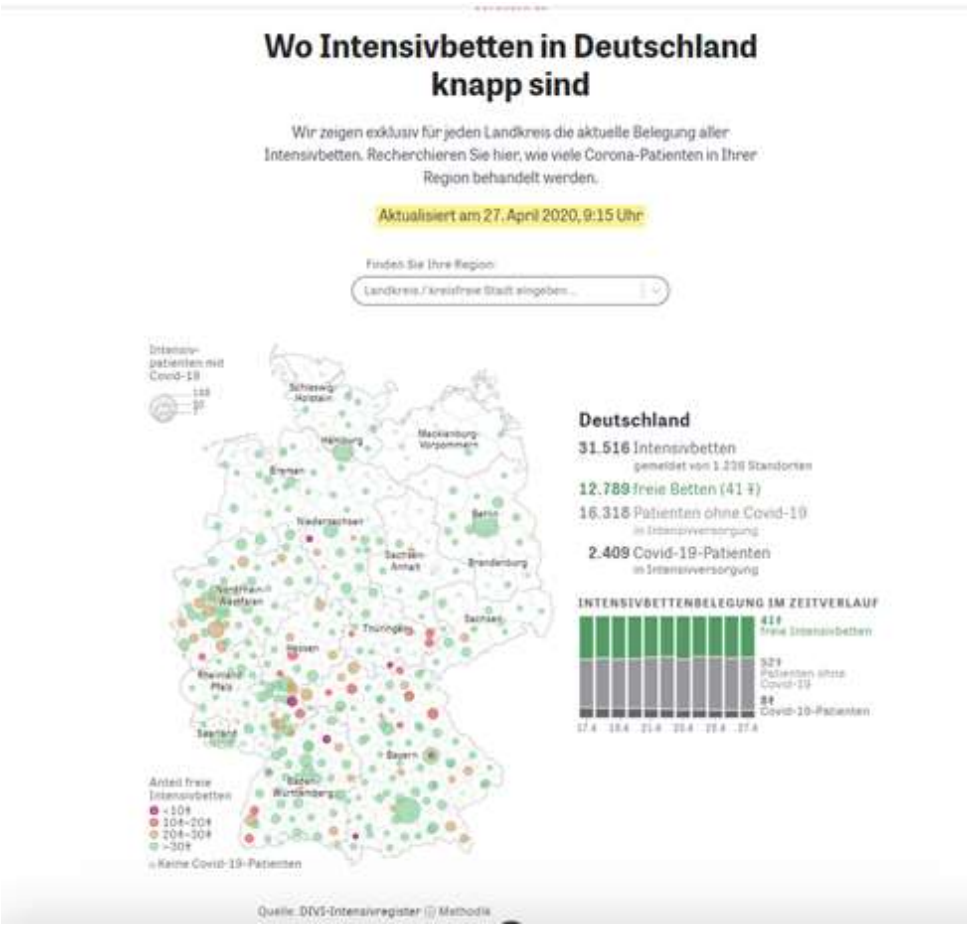
が維持できているのです。当たり前と言えば当たり前、かもしれません。その当たり前のことができなかった国は、多くを見習わなければいけないと思います。

全国の ICU ベッドの空き状況（PKI が関係する情報発信の一例）

今年 4 月 8 日に発令された「病院の集中治療体制維持に関する条例」に基づき、ICU をもつ病院は 4 月 16 日までに、ドイツ集中治療・救急医療学際的協会（DIVI）の集中治療レジストリに登録し、毎日午前 9 時までに ICU の空きベッド数を報告することが義務付けられました。2009 年の新型インフルエンザ H1N1 のときに作られたレジストリには 85 の病院が登録されていましたが、これを 1,000 病院以上に拡充して、リアルタイムで集中治療体制の状況が把握できる全国的なネットワークが短期間に構築されたのです。下の図は、ディー・ツァイト紙がこのデータをもとに作成し、ウェブサイトで公開しているマップです。

4 月 27 日 9 時 15 分現在、1,236 か所にある ICU ベッド 31,516 床のうち、空いているものが 12,489 床、新型コロナ感染患者が使用しているものが 2,409 床、新型コロナ非感染患者が使用しているものが 16,318 床あることがわかります。それぞれの丸は各郡ごとに集計された ICU ベッドの空き状況を示すもので、赤丸は 10%未満、緑丸は 30%以上の空きベッドを意味します。丸印にカーソルを当てると、当該郡の内訳がポップアップし、具体的なベッド数が確認できます。

https://www.zeit.de/wissen/2020-04/coronavirus-intensivbetten-deutschland-auslastung-kapazitaeten-tagesaktuelle-karte



４．津軽三味線と私の出会い　（對馬良一 会員　平成１３年９月記）

平成１１年７月１３日、ドイツ大使館で開催されたガーデンパーティに第一回日本民謡協会主催の津軽三味線コンクール全国大会優勝者の北海道岩見沢西高等学校を今年３月卒業したばかりの、石川はじめ少年の津軽三味線演奏が行われ、フランク・エルベ大使ご夫妻を始め全国から日独協会関係者２４０名の招待者に大きな感動を与えた。

三本の弦から奏でられる迫力のある演奏に大使は、「日本の素晴らしい三味線音楽を聴くことが出来良い思い出になりました」と感想を述べられた。大使はこの日が最後で近日中にワルシャワの大使として赴任との事でした。大使は「是非、ドイツの方々に日本のこの楽器の音楽を聞かせてください」と言われたのが嬉しかった。

【エルベ大使ご夫妻らと石川はじめ】

いま、若い人の津軽三味線演奏者が全国的に多くなっている。
私が津軽三味線に興味を持ったのは、夕張の炭鉱に勤め始めた頃で、まだ津軽三味線が脚光を浴びる前の時代の昭和３０年の頃だった。炭鉱の慰問にきた、津軽民謡歌手や、高橋竹山師などを近くで見たときからである。宿泊先もない竹山師が友人の家に泊まり、そこで生の演奏を聴いたことがあった。盲目でよれよれの着物を着、尺八や津軽民謡を歌いながら独特の津軽弁での話は面白かった。

全国に若い演奏者が沢山いるのは、東京オリンピック前後、多くの三味線演奏者が青森から出稼ぎにきて、そのままその地に住み付き、弟子を育て流派を興し、その弟子たちが全国で活躍している。今では、本場青森より若い演奏者が全国に多くなっている。

津軽三味線研究者の、大條和雄氏（弘前在住）とは青森に行ったとき何度もお伺いして津軽三味線の話を聴いた。津軽三味線の定義として「太棹の三味線で曲弾きを即興で弾くこと」であると語る。豪快華麗な合奏の迫力は他の三味線音楽には見られない。

津軽三味線にはこれといった正調がない。したがって弾き手が自由にのびのびとアドリブで弾くことが出来る。つまり、黒人音楽から生まれたジャズと同じ原理だと大條氏は言う。

津軽三味線は、つい近年まで乞食芸、大道芸でボサマ（坊様）と呼ばれる男盲の門付け芸人が奏でる三味線音楽で、津軽三味線という呼称でなく、ボサマ（坊様）三味線と呼ばれ、津軽では、ホイドすなわち乞食とも呼ばれていた人の芸であった。

津軽三味線には「叩き三味線」と「弾き三味線」の系列がある。叩き三味線は弦楽器を打楽器に変えたように一の弦を激しく叩きつける奏法、これに対し「弾き三味線」は対照的に、物静かにうら哀しい撥音で三の弦を多用してしんみりとした「音澄み」を聴かせる奏法である。代表的な演奏者に「叩き」の木田林松栄、白川軍八郎、「弾き」の高橋竹山といわれている。今「叩き」と「弾き」を組み合わせた奏法である。

私は毎年の５月、青森の津軽三味線全国大会を聴きに行く。それと昔、高橋竹山師や白川軍八郎師、木田林松栄と全国を巡業して歩いた、弘前市新寺町に在住する盲目の従姉から昔の話を聞くのが楽しみです。津軽では、三味線は新潟のはぐれ瞽女（ごぜ）から教えられたのだと言っていた。従姉は津軽三味線の舞台や練習の時に自分の師匠に教えられた言葉があると言う。

それは、「人真似だば猿でも出来る。人真似でネエーな（汝）の三味線をふげ（弾け）」という。

先日の大使館で弾いた石川はじめ（本名、野村崇義）君は高校時代から毎日５時間以上の練習をしていた。それが１７歳という若さで初代名人位の称号を授与された努力の結晶である。彼も私の北海道の従妹の子である。エルベ大使の勧めもあり「津軽三味線ドイツ演奏旅行」を思いつき、橋本とちぎ日独協会会長と相談しドイツ国内１７か所の都市での演奏会場を設定することが出来、資金は国際交流基金にお願いした。日本の古来の楽器、津軽三味線でドイツの人々にこの音楽を聴かせたいと、訴えた。幸い橋本会長の知人の強力な支援もあり認可された。企画から実現まで２年の年月を費やし演奏者２名、通訳として橋本会長、マネージャーとして私も同行することになった。

【石川はじめ君の演奏姿】

【石川はじめ君と筆者】

しかし渡独２週間前になって“石川はじめ”が急病になり行かれなくなった。「石川はじめ」の代替え人を探すのが大変でした。幸い石川はじめの師匠と兄弟弟子の茨城県の佐々木光儀師匠の若手演奏家で石川はじめのライバルだった、「廣原武美」（芸名、佐々木光隼）に依頼し国際交流基金に出演者変更願書を提出、もし中止になった場合、予約会場のキャンセルなどで損害賠償になりかねないと訴え変更届の受理をお願いした。　東京の国際交流基金の事務所で長時間担当者と話し合い、最終的に上司の方の決断でやっと許可になった。帰国後の結果報告や現地の反応等を詳細に写真添付で期限までに必ず提出のことなどの条件で受理された。確かに国際交流基金としては、初めてのケースだけに慎重に審議されて結論をだされたのだと思う。感謝の気持ちでいっぱいでした。難問題も解決し３週間の津軽三味線演奏に一路ドイツに赴いた。

次号に続く

５．日本百名山（連載-６）　（深田勝弥 会員 記）

１５　鳥海山　（２２４０米）　15　der Chohkai-san (2.240 m)

15-01

名山と呼ばれるにはいろいろの見地があるが、山容秀麗という資格では、鳥海山（ちょうかいさん）は他に落ちない。眼路限りなく拡がった庄内平野の北の果てに、毅然とそびえたったこの山を眺めると、昔から東北第一の名峰とあがめられてきたことも納得できる。

Der bekannte Berg hat verschiedene Gesichtspunkt, jedoch nicht fällt der Berg „*Chohkai*“, auf seine schöner Gestalt, gegen Anderen ab. Ich überzeuge mich davon, dass er von Alten als Berg am ersten Platz in der Region Nordosten verehrt war. Denn ich habe ihn, der in der weit breiteten *Shounai* Ebene im hohen Norden liegen, gesehen.

15-02

東北地方の山の多くは、東北人の気質のようにガッシリと重厚、時には鈍重という感じさえ受けるが、鳥海にはその重さがない。颯爽としている。酒田あたりから望むと、むしろスマートと言いたいほどである。それは鳥海が連嶺の形をなさず、孤立した一峰であるところにも基因する。

Die Berge im Nordosten sind meistens stämmig wie das Temperament des nordöstlichen Bewohners, ab und zu robust und sogar langsam. Aber allein der *Chohkai* ist nicht schwer, sondern schneig. Aus der Gegend *Sakata* ihn gesehen, sieht er eher schick aus. Es ist dieser Grund, dass der *Chohkai* keine Bergkette hat, sondern einziger Gipfel ist.

15-03

標高は東北の最高とは言え、わが国の中部へ持ってくると、決してその高さを誇るわけには行かぬ。しかしその高さは海ぎわから盛り上がっている。山の裾は海に没している。つまりわれわれはその足元から直ちに二二四〇米を仰ぐのであるから、これは信州で日本アルプスを仰ぐのに劣らない。

ここにして浪の上なるみちのくの鳥海山はさやけき山ぞ　　斎藤茂吉

Obwohl er am höchsten im Nordosten ist, fällt er gegen die Bergen im Mitte Japan mit der Höhe ab. Aber er ist sich aus dem Meer erhoben. Wenn wir zu ihm aufsehen, dann sehen wir zum reinen 2.240 m auf. Da er so hoch wie die Berge im Gebiet *Shinshuh* aussieht. Daher ist er den Bergen in der Mitte, an Höhe nicht unterlegen.

Auf der Welle schwimmend,

liegt rein der Berg Chohkaisan
hier im hohen Norden. *Saitou Mokichi*

15-04

始めて私が鳥海に登ったのは、その海ぎわの吹浦（ふくら）という漁村からであった。『奥の細道』の中の「吹浦の砂蹟」に出てくる涯てしのない砂浜を見てから登山にかかった。今は山腹までバスがあるが、その頃にはまだそんな広い道はがなく、私は海抜ゼロ米から足を踏み出さねばならなかった。四月の半ばスキーで登ったが、その帰り落葉松の林の中を滑って行くと、薄赤く膨らんだその梢の上に、日本海が青黒く拡がっていた。

Es ist vom Fischerdorf am Meer namens *Fukura*, dass ich zum ersten Mal auf den *Chohkai* gestiegen bin. Davor hatte ich den endlos weiten Strand übergeblickt, der in der Anthologie von *Bashoh* „Auf den Pfaden durchs Hinterland“ als „*Fukurano-saseki*“ steht, überblickt. Heute fährt der Bus bis zum Bergabhang, damals war doch kein so breiter Weg, musste ich aus über dem Meerspiegel Zero Meter einen Schritt vortreten. In Mitte April bin ich dabei mit Skilauf, und beim Abstieg auch mit Ski fahrend, sah ich das dunkel blaue Japanischen Meer sich verbreiten, übern dünn rosa geschwollenen Wipfel.

15-05

昔から日本の名山はたいてい信仰に関係があるが、鳥海もその山頂に大物忌神が祀ってあり、創建年月は明らかではないが、用明天皇の御宇、正一位を授けられ勅額を賜ったというから、すでに千三、四百年前から名山として崇められていたのであろう。昔は多くの白衣の行者で賑わった山であった。

Seit langer Zeit hängen die bekannten Berge meisten mit der Religion zusammen. Der *Chohkai* hat auch auf seinem Gipfel einen Schrein , wo der Gott *Ohmono-imino-kami* verehrt wird. Es ist nicht ganz klar, wann der Schrein errichtet wurde, aber der Berg ist seit wohl dreizehn oder vierzehn hundert Jahren der Heilige. Weil er in der Zeiten des Kaisers Youmei (ca. 587) den ersten Rang bekommen haben sollten. Damals wohnten bei dem Berg sicher viele Bergasketen mit weißer Kleidung.

15-06

実際にこの山を眼にすれば、古くから信仰の対象になったことが肯ける。頂上はくろがねの雄々しい岩峰で、それからなだらかな裾を平野に引いている。その威厳のある秀麗な山容は、まだ山には神が在わすと信じた上代人に、おのずと跪拝の心持を起こさせたのであろう。その上、鳥海は火山である。その度々の爆発は、神意の啓示として人々を畏怖させしめたに違いない。爆発のあるごとに、朝廷から大物忌神の贈位の格上げが、史実に残っている。鳥海山はこの地方の守護神だったのである。

Wenn man wirklich auf den Berg ein Auge haben, kann man sich davon überzeugt, dass er schon lange der Gegenstand des Glaubes ist. Der Gipfel ist die männliche Felsenspitze wie Eisen, und daher dehnet den sanften Fuß zur Ebene aus. Die würdevolle und schöne Gestalt muss den alten Bewohner, der noch der Gott zu sein glaubt, die Ehrfurcht haben gelassen hat. Noch dazu ist der *Chohkai* ein Vulkan. Jeweils muss die häufigen Ausbrüche ihn als Offenbarung beibringen. Es wird im historischen Dokument hinterlassen, dass der Gott *Ohmono-imi* mit jedem Ausbruch von Kaiser einen höheren Rang eingenommen wurde. Der *Chohkai* war in dieser Gegend der Schutzgeist.

15-07

鳥海山が山麓の住民に尊崇されているのには、さらに現実的な問題もある。有名な米の産地である庄内平野も秋田平野も、この山から流れ出る水でうるおっている。今でも庄内と秋田の水争いで山の領分の奪い合いがあるという。

Weil der Berg *Chohkai* von Bewohner angebetet ist, hat noch anderen realistischen Grund. Die beide berühmten Reiserzeugerländer, in den Ebene *Shounai* und *Akita* bekommen Wasser aus dem *Chohkai*, deshalb streiten beide noch jetzt um das Territorium um den Berg, so man sagt.

15-08

鳥海山は登ってみて、ヴォリュームのある深い山という感じには乏しいが、年経た火山だけあって、地形の複雑な点に興味があり、すぐれた風景が至るところに展開されている。頂上火口の険しい岩壁、太古の静寂を保った旧噴火口の湖水、すぐ眼下に日本海を見下ろす広々とした高原状の草地――これだけの規模の山で、これほど変化に富んでいる山も稀であろう。高山植物にもチョウカイフスマ、チョウカイアザミその他、この山の名を冠した種類が多いことを見ても、その多彩豊富が察しられる。

Meinem Erleben vom Aufstieg nach, finde ich, dass obwohl er weder umfangreich noch tiefgründig ist, interessiert aber er mich die überall gestreuten Komplexität und schöne Landschaft, denn er ist der alte Vulkan. Die schroffe Felsenwand um den Krater auf dem Gipfel, der See hier mit uralten stillen Wasser und von der weiten Wiese gerade unten das Japan Meer zu sehen ist. Ein solcher vielfaltiger Berg ist vermutlich selten. Hochgebirgspflanze hat auch viele Arten mit dem Namen *Chohkai*, wie *Chohkai-fusuma*, *Chohkai-azami* (-Distel) und so weiter. Wir können es vermuten, wie viel farbige Dinge der Berg hat.

15-09

私が頂上に立った日は玉の如き秋晴れであった。早朝駒止(こまどめ)の小屋を出た時は満天の星で、行く手の黒い稜線の上に、北斗七星のヒシャクが大きく縦(たて)にかかっていた。一

枚ずつ皮を剥ぐように闇が薄れ、大平小屋に着く頃にはすっかり明るくなり、蔦石坂(つたいし)の急坂を登りきると、朝の太陽が射してきた。見おろした中腹の紅葉は何とも言えず美しい。下界は全く白い雲海に覆われている。その雲海の涯に月山の優しい姿がクッキリ浮かんでいた。

Als ich mich auf den Gipfel stellte, war das Wetter heiter wie Edelstein. Frühmorgens von der Hütte *Komadome* aufgebrochen, bin ich unter dem Sternhimmel. Der Große Wagen stand längs überm Grat. Die Duunkelheit verschwand Stück für Stück. Es wurde ganz klar, als ich die Hütte *Taihei* erreicht hatte. Und die Morgensonne begann zu scheinen, als ich über die steile Steigung *Tsutaishi-zaka* gekommen war. Unten geblickt, ist die Herbstfärbung sehr schön und darunter ist die Welt ganz vom weißen Wolkenmeer bedeckt. Und der Berg *Gassan* schwamm klar darüber.

15-10

豊かな高原状の見晴台を過ぎ御浜(おはま)に着くと、そこには夏の行者のための宿舎がある。旧火山口の鳥海湖の神秘的な静かな風景も、そこから見下ろすことが出来た。登るにしたがって、雲海の上に島のように、岩手、朝日、飯豊、蔵王などの東北の名だたる山々が続々と現れてくる。正面には頂上の岩峰がドッシリと座っている。空はみごとに晴れ渡り、空気は澄み、風さえ穏やかで、全く秋の鳥海山を満喫の形であった。頂上の外輪山を伝って七高山に達し、火口におりると、岩を積み重ねたような最高峰の新山が立っている。そのお宮に参拝して下山の途についた。

Durch den Aussichtspunkt, bin ich in der Hochebene *Ohama* angekommen, gibt es hier eine Unterkunft für die Bergasketen im Sommer. Ich konnte von dorther die geheimnisvoll stille Landschaft des alten Kratersees hinunterblicken. Je höher ich steige, desto mehr sich zeigen die berühmten Berge im Nordosten, *Iwatesan, Asahi, Iide*, *Zaoh* und so weiter, wie Inseln auf dem Wolkenmeer. An der Frontseite sitzt massiv die Felsenspitze vom *Chohkai*. Das Wetter ist ganz schön, die Luft frisch und der Wind sogar milde. Ich habe den *Chohkai* im Herbst voll genossen. Dann dem äußerer Kraterringwall entlang gegangen, habe ich den *Shichikoh-san*, erreicht und noch weiter steige in den Krater ab. In der Gegend hier liegt der höchsten Berg *Schin-san*, wie sich gehäuften Felsen. Danach seinen Schrein besucht, nahm ich den Rückweg.

17. Juni 2019.

続く

事務局註：深田勝弥会員は作家故深田久弥氏の甥という関係から名著「日本百名山」の独訳に挑戦されています。北海道から南下していきますが、百座を網羅する時間とスペースがないため一定地域に偏らないように選択しながら進めています。

６．デザイナー修行奮闘記　－　連載　15（井上晃良 会員 記）

受験本番に臨む

歴史ある石造りの立派な外観を持つ大学構内には既に多くの受験生が集まって来ていて、案内に従い自分の受験する教室へと向かう。ここは四年制八期の美術大学であるが、私の受験するのはアウフバウ・ストゥディウムという既に別の大学を卒業し、新たにここに入学するために設けられた二年間四期のもので、八学期履修する通常学生の四学期以降の授業を受けるということである。しかもそれは私が受験する KFZ デザイン（トランスポーテションデザイン）学科のみに設けられているもの。この大学は、先に述べた工芸装飾デザインの他、グラフィックデザイン、服飾デザイン、工業デザイン、そしてトランスポーテーションデザインがあるデザインに特化したドイツ唯一の美術大学である。当時、自動車デザインを始めとするトランスポーテーションデザインの領域は、世界の右肩上がりの市場に支えられ、この大学でもシュツットガルトのダイムラーベンツ社の支援を受けて設立された学科でもある。そしてこの学科は、特にヨーロッパを初めとした世界中からのカーデザイナーを目指す若者が集まってきていた。私自身も既に１度日本の美大を卒業し、二年半ではあるがデザイナーとしての就業経験もあるので実技のみの受験は自信がなかった訳ではないのだが、問題は「ドイツ語」である。確かに渡独後半年で日常のコミュニケーションは日本でドイツ語を１年間学んでいた時よりは遥かに理解でき、発言もできたのだが、問題文を理解したり、面接でのコミュニケーションには、心もとないものであった。

そこで、受験する教室に入るとすぐに担当する係に辞書を使って良いかと聞いたところ、快諾を得た。課題は実技なので、辞書があろうがなかろうが合否には直接関係がないのは、言わずとしれたところである。とにかく私は他の受験生に比べ圧倒的なハンデを自覚していた。

受験科目は、実技と面接である。ドイツでは面接が非常に重要視される。割合で言えば、実技と面接が半々程度と考えられる。日本での美大受験が学科と実技であったことに比べれば、全く異なる。

試験が開始される。まず試験問題が配布されると、鉛筆デッサンである。それも写生ではなく、テーマは「キッチン」。１問目はキッチンをその場でデザインし、最も美しく見えるアングルで鉛筆デッサンする。試験が始まって暫くすると、日本人らしき学生が私の元にやってきた。彼はここの学生で、ドイツ語に不自由している私を見かねた学校側が彼をよこしてくれたのである。この時は不安で一杯であったため、とても助かった。二問目は、同じテーマで着彩をする。こうして午前中をフルに使って数問の実技試験が行われた。

午後になり、昼食を挟んで面接が開始される。実技試験のみでの合否はなく、面接を行うことは驚いた。丸１日掛けて面接を含めて全ての受験科目を受けるのは、中々タイトに感じた。玄関ホールでは、既に午前中の実技試験の合格発表が

行われている。私の場合は面接があるので発表はないが、合格発表は洋の東西を問わない。ドイツの大学では同じ大学の受験に二度失敗すると、その後は受験できないこともあり、より真剣にならざるを得ない部分もあろう。

面接会場に足を踏み入れると、長いテーブルの両側に学校全ての教授が揃っているのではないかと感じられるほどの沢山の先生方陣取っていて、私と同じトランスポーテーション学科を受験したオーストラリアからの学生の二人がそのテーブルの端に着いた。テーブルの上には、午前中の実技試験で描いた私の絵が載っている。その絵の講評をこの場で行いながら、また事前に提出した作品集（A2サイズのポートフォリオ）２冊を教授陣に説明する。また、私の対する一般的な質問もこの場で行われた。

教授陣には、実技試験の絵の出来はともかく、作品集については概ね好評であったのは幸いであったが、一方で教授陣との満足なコミュニケーションが取れないことがこの面接で露わになり、最後の評決を迎えることとなった。私に目の前で教授の一人でもある学長の指示により教授陣が挙手で合否の採決をするのである。

幸運なことに全ての教授（と思う）が、私をこの大学の学生として迎え入れることを認め挙手した。この時は私の緊張も極限に達していたと思う。会社を辞めてまでドイツに来て、目的の大学受験の合否がこの面接会場で決まった瞬間でもあったからである。しかし、である。学長は私に合格の言葉の後、こう付け加えた。「君は春学期から授業を受けても、おそらくドイツ語の問題で授業についてゆけないであろう。もう半年間ドイツ語の勉強をしてきなさい。そうすれば当大学の学生として迎え入れましょう」…と。つまり、試験は合格したものの、半年遅れの条件付きという訳である。ちなみにドイツでは一年二期で入学も卒業も半年毎である。その場で私は返す言葉などなかった。そして面接は終了したのである。帰り際に学長から今一度「Lernen Sie Deutsch!」と言われた時は、さすがに素直に試験の合格を喜べる状態になれなかった。オーストラリアからの受験生は、流暢なドイツ語を話し、作品も優れていたのだろう。私と違い条件なしの合格となった。

（本記事はイカロス出版株式会社発行『鉄道デザイン EX 03 』に連載されたものを転載したものです。同社のご好意により転載の許可をいただいています。）

７．新型コロナウイルス雑感　（近藤基晴 会員 記）

年初から吹き荒れた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界中に拡散され、各種活動・イベントは中止され、生きていくうえで最低限必要なものに限定した味気ない生活を世界中の人々が余儀なくされた。

敢えてプラス思考で言うと、このような状況はこれまで当然と思って生活してきたことについていろいろと考え直す良い機会でもあった。例えば

① ウイルスという日本語。ドイツでのニュースを聞いていると”Virus”と言っている。発音は「ヴィールス」だ。日本語の「ウイルス」を素直にアルファベットで書くと Wirus となる。W はドイツ語読みだと「ヴ」だからドイツ語では Wirus でそれを日本語読みで「ウイルス」なのかなと思いがちだ。しかしドイツ語 Virus の発音は「フィールス」ではなく「ヴィールス」。はて、では日本語のウイルスという発音はどこから来たのか？調べてみると語源はラテン語の virus で発音は [ˈwiːrʊs] だから「ウィールス」に近い。Wikipedia によると「1953 年（昭和 28 年）に日本ウイルス学会が設立されたのを機に、「ウイルス」という表記が日本語の正式名称として採用された」となっている。

② 必要は発明の母でいろいろと制限された生活の中でいろいろな知恵・工夫が考案されている。今まで当然と思ってやっていたものを見直す良い機会だ。

③ 世界各国の指導者が同じ問題にどのように対応するのか、指導者としての資質が同じ尺度で同時進行で比較できるという意味ではよい機会であった。コロナウイルス拡散防止に取り組むよりも政争の道具とする例もいくつか見てきた。為政者としての器、また人間の器を測る絶好の機会でもあった。

④ ウイルスは核や小器官をもつ細胞よりもはるかに単純で、感染した細胞が無ければ自力で増殖もできないそうだ。しかし素人の目からすると医学の進歩よりも進んだ戦略的で高等な生き物のように見えてしかたない。ところでパンデミックの語源を調べてみよう。パンは pan で、pan America や pan Pacific でもおなじみの「汎」だ。pan-「すべて」、dem「人々」、-ic「性質」で「すべての人々に広がる」ということ、つまり「病気の世界的大流行」だ。パンデミック一歩手前のエピデミックは、epi-「間の」、dem「人々」、-ic「性質」で「人々の間で広まるもの」つまり「伝染病」となる。中世の「魔女狩り」が今は「東洋人狩り」となって存在しているのは嘆かわしい。

⑤ 隔離を意味する英語 quarantine（ドイツ語では Quarantäne）の語源はよく知られているとおり 1347 年のペスト流行だ。当時、世界中で流行したペストは東洋の国々から来た船が広めているとして、当時のヴェネツィア共和国政府は、船内に感染者がいないことを確認するため、潜伏期間の 40 日間、疑わしい船をヴェネツィア近くの港外に強制的に停泊させる法律を作った。
quarantine はイタリア語の 40= quaranta のヴェネツィア方言だそうだ。

⑥ コロナウイルスはなぜ「コロナ」なのか。これは「大きな球状の表面突起の縁をもち、樹冠や太陽コロナを思わせる像をつくる」（Wikipedia）ことから名付けられたものだ。

⑦ 日本では再びトイレットペーパーの買いだめでスーパーの棚から消え去った。そして、同じことが世界各国で起きていることが報道された。人間どこでもまずはトイレットペーパーなのだ、といやに感心してしまった。食料品ではこれも世界どこも同じで、パスタがスーパーの棚から消えていった。各国政府は「買いだめをしないように！」に叫んでいる。ところで「買いだめする」をドイツ語で “hamstern” というのを今回の事態で初めて目にした。案の定これはハムスターが餌を確保する動作から来ている。名詞の「買いだめ」は俗語

で“Hamsterei”と辞書にある。またメルケル首相の国民へのメッセージでは“Hamsterkauf”（ハムスターのように買いあさること）という単語が使われていた。一方、英語では“squirrel”（金銭や物をため込むこと）となり買いだめの行為に「リス」が使用されている。

⑧　4 月 13 日の日経新聞電子版によると、2013 年 1 月に連邦議会（下院）がまとめた報告書では、「感染スピードを鈍らせるには学校閉鎖や大規模集会の禁止しかない。電気やガスは供給できるが、航空・鉄道は滞り、医療はパンク。消毒液やマスクの調達も難しくなる。感染終息には 3 年かかるだろう」と、今回の COVID-19 の現状を言い当てている（詳細は第 3 項「新型コロナに立ち向かうロベルト・コッホ研究所」参照）。このような準備があったからこそドイツでは感染者が大幅に増加しても医療崩壊は起こらず、死亡率も低く抑えられた訳だ。一方、日本はダイヤモンド・プリンセス号当時、中国・韓国に次ぐ「危ない国」だったが、その後長く感染爆発を回避し続けることが（現時点では）できている。ドイツは仕組み作りがうまい国であることがあらためて証明された格好だが、日本は本質的問題の解決はさておき、目の前の問題をうまく乗り切る、そんな真面目な民族性があらためて示された格好だと思う。

鬱陶しい中、こんな空想の中を漂ってい過ごしている。こんなきっかけを作ってくれた新型コロナに感謝（ ?！ ）でもしなければやっていけない気分だ。今後、第 2 波・第 3 波と続く長い闘い。みなさん、気をつけましょう。

8．オンライン活動の試み - 「ドイツ語ニュースを聞く会」にて　（事務局）

COVID-19 の影響で「３密」となる私たちの定例活動は 3 月以降中止を余儀なくされてきました。収束までしばらく時間がかかると予想されることから、ぐんま日独協会ではオンライン活動をトライしてみようということで、4 月中旬以降事務局にて実験を始めました。これをベースに参加希望者に対して事前に会議への参加試験を行い、問題なく会議に参加できたことを確認し、5 月 16 日の「ドイツ語ニュースを聞く会」に臨みました。

いよいよ初のオンライン活動の開始です。14 時開始に備えて参加者 10 名は 13:45～55 の間に会議に入り、定時に開始することができました。操作上の大きな問題もなく画質も満足いくものでした。ニュースの内容も勿論です。

これを機に、私たちのもっともベースとなる定例活動である「ドイツサロン」をオンラインでも開始する予定です。6 月の試験導入後、コロナの状況を見極めてオンラインとリアルを並行させて行うことにより、リアルの世界で実際に集まる人数を最小限に抑えて「3 密」を回避させることができるという狙いです。新たな試みでコロナに打ち勝ちましょう。